

『心に響く修学旅行のあり方』

—平和への想いを歌声にのせて in広島—

佐野市立西中学校 第3学年主任 飯塚雅美
第3学年副担任 元田勝章

I はじめに

- 1 佐野市の紹介
- 2 学校紹介

II 修学旅行を広島へ

- 1 ねらいは・・・
 - ・これからの国際化の時代を担う子供たちに「平和教育」は必要である。
 - ・平和について「心に響く」体験をすれば、将来に生きるはずだ。
- 2 課題は？
 - (1) 事前の準備は？
 - (2) 行程は？
 - (3) 当日の広島での内容は？
 - (4) 保護者への説明

III 事前の準備

- 1 目的の確認
- 2 事前の準備
 - (1) 事前の「平和学習」
 - ・総合的な学習の時間に調べ学習やビデオ視聴
(原子爆弾とは、原爆の恐ろしさ、佐々木禎子さんの生涯など)
 - ・他教科との連携
 - (2) 「大地讃頌」の練習
 - ・大地讃頌の曲の背景歌詞の理解
 - ・練習風景

IV 実施へ

- 1 行程
- 2 目的を達成するために
 - (1) 広島での「平和学習」
 - ・平和記念公園ボランティアガイドさんからの説明
 - ・平和記念資料館の見学
 - (2) 広島で「心に響く」体験を
 - ・被爆体験記朗読会で原爆詩を聴き、朗読する。
 - ・原爆の子の像の前で折り鶴を奉納する
 - ・「大地讃頌」の歌に平和への想いをのせて
(詩の朗読を聴いた後で) (原爆の子の像の前で)

V 最後に

- 1 広島への修学旅行を振り返って
 - (1) 事後の学習
 - (2) 生徒の感想より
- 2 今後の成果と課題

『心に響く修学旅行のあり方』

- 平和への想いを歌声にのせて in 広島 -

佐野市立西中学校 第3学年主任 飯塚雅美
第3学年副担任 元田勝章

はじめに

1 佐野市の紹介

佐野市は、栃木県の南西部に位置し、平成17年度に佐野市、田沼町、葛生町が合併し、人口12万の栃木県第4位の都市になった。関東平野の北端に位置し、緑豊かな森林や美しい清流など自然環境に恵まれ「水と緑と万葉の町」というキャッチフレーズがある。はるか昔は、平将門の討伐やムカデ退治伝説



で有名な藤原秀郷公の居城であった「唐沢山城」をかかえた城下町でもある。そして現在では、北関東自動車道と東北自動車道がクロスする周辺の佐野新都市地区には、佐野プレミアム・アウトレットやイオンショッピングセンターなどの大型商業施設が進出し、「物流拠点の都市・交通要衝の地」となっている。食べ物もおいしく、佐野ラーメンとイモフライで有名な町でもある。

2 学校紹介

生徒数380名、14学級の中規模校で、佐野市の西側に位置し、田園に囲まれた学校である。足尾鉍毒問題で天皇陛下に直訴した田中正造の生誕の地でもある。学校目標は、日々の授業や学級経営を基盤に、学校目標達成に努めている。私たちの目標は - 1自ら学び考える 2自他を尊重する 3たくましく生きる - の3つである。

特色ある学校行事としては、「日光例幣使街道物語」という30数キロを全校生徒が歩くという行事がある。江戸時代の主要な街道であった日光例幣使街道を、江戸時代の人々が歩いたのを偲びながら全校生徒が歩くのである。部活動もさかんで、特に男子バスケットボール部は栃木県大会で連続4回優勝している。その他テニス部や剣道部、バレーボール部でも県大会の上位入賞を果たしている。また歌声の響く学校で、毎年秋に行われる合唱コンクールに向けて、朝や昼休みや放課後に、歌声が響いている学校である。



修学旅行を広島へ

1 ねらいは・・・

(1) これからの国際化の時代を担う子供たちに「平和教育」は必要である。

紛争の絶えない現代社会にあつて「平和」について考えることはますます重要になってきている。そんな中、日本は世界で唯一の被爆国であり、世界に「核の恐ろしさ」について発信する役割を担っている国である。広島を訪れ平和について考えることは、これからの「日本人として」大切なことである。日本の伝統文化を中心に学んできた修学旅行から、「平和」を考えていく、現代の修学旅行のあり方について考える必要がある。

また、栃木県の高校の修学旅行は沖縄や海外に変化しており、このままでは多くの生徒が広島を一生涯訪れることはないであろう。「平和教育」という意味からも広島への修学旅行は意義あるものであると考えた。

(2) 平和について「心に響く」体験をすれば、将来に生きるはずだ。

写真や映像を通してでなく、被爆地である広島を訪れ見たり聞いたりする「貴重な体験」は、深く生徒の心を揺さぶるはずである。また、被爆体験詩の朗読を聞くことは、実際にその地で起こった原爆投下時の状況や恐ろしさが肌を通して伝わってくるはずである。

そんな感情を抱きながら原爆に関する歌を広島の地で歌えば、歌を通して感情移入をし、生徒の「心に響く」はずである。

感受性の多感な十代に、広島に行き原爆の恐ろしさについて、肌でじかに感じることは、きっと「生徒の人間形成に」大きな影響を与えるはずである。

2 課題は？

(1) 事前の準備は？

「平和教育」とは何をすればいいのか？

まず、教師が広島のことや平和のことを知る必要があると考え、該当学年の教師数人で、下見に行った。広島で何をすればいいのか、何をすると感動的な修学旅行になるのかなど、講演会や先進校の視察なども検討した。

特に、総合的な学習の時間の調べ学習のあり方について、各教科の平和に関する単元と教材の確認と関連指導について、ビデオなど映像を利用した学習について、インターネットなど情報機器を利用した学習のあり方などの工夫を検討した。

「心に響く」体験をするには「歌」と結びつけては？

「大地讃頌」を広島で歌うことを考えた。「大地讃頌」は、混声合唱のためのカンタータ「土の歌」の中の第7章という一部分で、広島に落とされた原爆と平和についての歌である。静かですっきりとしたテンポの曲で、原爆を悲しみ平和を願った歌である。その歌を、いつからどのように練習するか、どこで歌うといいのか、どのように歌うと感動的な歌声になるか、などを考えた。大地讃頌を広島で歌ったときに、歌詞に自分の感情のせて「歌声で表現」できるようにすることを目標とした。

(2) 行程は？

その当時、栃木県下で広島に修学旅行に行っている中学校はなく、いくつかの課題が考えられた。まず、栃木県佐野市を出発して広島に着くまでに、約6時間が必要である。広島までは、東京駅から新幹線で4時間かかる。京都から広島へは1時間半必要である。広島、京都、奈良の3カ所を回るのに、どのような行程がいいのか旅行会社のアドバイスも受けた。

第1案 - 初日に一番遠い広島まで行く。

- ・ 1日目(広島) 2日目(京都) 3日目(奈良)のコース
- ・ 1泊目(広島) 2泊目(京都)に宿泊

《メリット》

- ・ 初日に一番遠いところに行き、徐々に戻ってくるというコースで安心感がある。最初が一番長い移動なので、最初の移動が終われば気分的にも肉体的にも楽になる。
- ・ 長い移動時間を3日間に分散できる。

《デメリット》

- ・ 2日目の京都の滞在時間が6時間ぐらいしかとれない。

第2案 - 初日に広島まで行って、その日のうちに京都に入る。

- ・ 1日目(広島) 2日目(京都) 3日目(奈良)のコース
- ・ 1泊目(京都) 2泊目(京都)の京都に連泊

《メリット》

- ・ 2日目の京都の滞在時間を朝から夕方までたっぷりとることができる。
- ・ 2泊とも同じ宿に泊まるので、宿の移動の手間が省け、荷物も移動する必要がない。

《デメリット》

- ・ 長い移動時間が1日目に集中してしまう。合計移動時間は10時間にも及ぶ。1日目に広島を見学したあと京都に帰ってくるので、京都着が夜遅くなってしまう、生徒の体力を消耗し健康面が心配である。

第3案 - 初日に京都に行って、二日目に広島に行く。

- ・ 1日目(京都) 2日目(広島) 3日目(奈良)のコース
- ・ 1泊目(京都) 2泊目(京都)の京都に連泊

《メリット》

- ・ 長い移動時間を3日間に分散できる。
- ・ 2泊とも同じ宿に泊まるので、宿の移動の手間が省け、荷物も移動する必要がない。

《デメリット》

- ・ 2日目は、広島へ行きと帰りに2回新幹線に乗らなければならなくなり、合計の新幹線の乗り降りの回数が増えて、費用が増える。

【決定】 - 第1案に

- ・ 京都の滞在時間が短いので、広島の宿泊先は駅の近くにとり、朝早く広島を出て、京都に入れるようにした。京都の見学はタクシーを利用し、短い時間で効率よく回れるようにした。

(3) 当日の広島の内容は？

広島での活動時間は6時間である。見学の場所は、原爆ドーム・平和記念資料館と2カ所あり、体験談は、被爆証言講話と被爆体験記朗読会がある。

原爆ドーム 説明をしてくれるガイドさんはいないか？

原爆ドームと平和記念公園は、ガイドさんなしで班別で見学する方法とガイドさんの説明を聞きながら見学する方法がある。原爆の恐ろしさなどガイドさんから話を聞いて、知識を「知る」ことに重点をおいた。

【決定】 - ボランティアガイドさんを旅行会社を通じて依頼した。

- ・原爆ドームについて説明があったほうが、ただ漠然と見ているよりも分かりやすい。

平和記念資料館の見学方法はどうか？

団体を案内してくれるサービスは館内では行っていない。ヘッドホンの音声ガイド（有料）がある。班別に見学し、原爆の恐ろしさなど、知識を自主的に「学習する」ことに重点をおきたい。

【決定】 - 班別に、展示の説明を読みながらゆっくり回るように指示した。

- ・音声ガイドは、説明を読めば分かるので頼まなかった。広島での唯一の班別行動の時間で、班で感想を述べ合いながら見学するようにした。

被爆証言講話 or 被爆体験記朗読会、どちらにするか？また会場は？

被爆証言講話は、被爆された方が自分の体験談を話してる。実際に体験したことを聞くという、広島に行かなくてはできない貴重な体験となる。かなり、高齢の方が多い。

被爆体験記朗読会は、詩の朗読が中心で、プロの朗読家が体験記と詩を朗読を聞き、生徒もいくつかの詩と一緒に朗読する。話し方はプロなので、とても上手に朗読する。

会場は、ホテルで食後に行う方法と昼間ホールで行う方法がある。

朗読詩を聴きながら、「心で感じる」ことに重点をおきたい。

【決定】 - 被爆体験記朗読会と会場を予約した。

- ・朗読会は、プロの話し手をお願いした。

(4) 保護者への説明は？

- ・保護者会で、説明し理解を得る
- ・学年通信で、説明し理解を得る
- ・入札説明会への保護者代表の参加

修学旅行タイムテーブル

時の流れ	教師の準備	「平和教育」関係	歌「大地讃頌」関係
1年生9月	おおまかなコースと宿舎地の決定		
1年生10月	入札説明会		
1年生11月	入札業者決定		
1年生3月	教師による広島の下見		
2年生9月	被爆体験講話の予約	広島平和新聞作成	
10月			
11月			講話「大地讃頌について」 大地讃頌練習
12月			3年生との合同練習
1月			発表（スキ学習にて）
2月		佐々木禎子さん生涯についてレポート作成 千羽鶴作成	発表（立派にて）
3月		京都除良の調べ学習	
3年生4月		修学旅行クイズ	
5月	修学旅行		発表（修学旅行にて）
6月		修学旅行新聞 修学旅行俳句	
3月			発表（卒業式にて）

計画作りと事前の準備

1 目的の確認

(1) 「平和教育」

- ・これからの国際社会で、原爆と平和について考えることは、必要なことである。
- ・世界で唯一の被爆国である日本は、核の恐ろしさについて世界に発信する役割を担っている。

(2) 「心に響く」

- ・ガイドさんの話を聞いたり、平和記念資料館を見学を通して、原爆と平和について学習する。＝「知る」「学習する」
 - ・被爆体験記朗読会を聴いて、自分で詩を朗読し、心に感じる。＝「感じる」
 - ・「大地讃頌」の歌詞に自分の感情をのせて歌声で表現する。＝「表現する」
- 感受性豊かな10代の時に、経験させることで、平和への想いを心に刻む。

2 事前の準備

この事前の学習をしっかりとやると、広島に行く意義が分かり、感動の度合いが変わります。2年生の9月から準備は始めました。

(1) 事前に行う平和学習

総合的な学習の時間に調べ学習

平和記念資料館で原爆についての本を購入し調べ学習に活用した。インターネットも活用し、各自がテーマに沿ってレポートをまとめ、掲示した。特に佐々木禎子さんについては、鶴を折ったり原爆の子の像を訪れたりするので、全員がレポートに沿って学習を行った。

- 調べ学習のテーマ 「原子爆弾（ファットマンとリトルボーイ）とは？」
(資料2) 「原爆まえの広島と破壊された広島は？」
「原爆を作ったのは誰か？」
「なぜ広島と長崎なのか？」
「なぜ原爆でたくさんの人が死ぬのか？」
「原爆被害の後遺症とは？」
「貞子さんと原爆の子の像」
「遺品は語る」

映像を通して学習

テレビのNHKスペシャルなど「広島原爆」や「平和」についての番組があったので録画し、事前学習の資料とした。また、市販のビデオも購入し学習の教材とした。

- ビデオ教材 「ヒロシマに一番電車が走った」
「夏服の少女たち」
「語り部シリーズ・ヒロシマ」
「はだしのゲン」

他教科との連携

- ・国語「君はヒロシマを見たか」
- ・英語「Lesson 4 Sadako and thousand paper cranes」
- ・社会「広島歴史」「京都・奈良歴史」

(2) 大地讃頌の練習

2年生の10月から始まり、何度も何度も繰り返して練習するようにした。歌詞の言葉を一つ一つを噛みしめながら、感情を込めて歌うことが目標である。広島の地で、平和への想いを歌声にのせて歌いたい。

なぜ「大地讃頌」なのか？（「土の歌」「大地讃頌」歌詞 資料5）

大地讃頌は反戦と平和への願いを込めた歌であり、大地を讃える歌である。作詞者の大木惇夫さんは、広島出身で親戚や知人などたくさんの人を原爆で失い、二度とこのような悲惨なことが起こらないことを願ってこの曲を作った。合唱ボランティアの方をお願いして、1時間の講話という形で、まず、大地讃頌の成り立ちと歌詞を理解した。

合唱の練習風景

1週間に1時間ある選択音楽の時間を使って、約半年にわたって練習した。合唱のボランティアの先生に歌唱指導をお願いした。



(ボランティアの先生に指導を受けながら)



(選択音楽の時間で)

発表は合計4回

スキー学習(1月) 立志式(2月) 修学旅行(5月) 卒業式(3月)

約半年に及ぶ練習の間に、発表の場面を2回作り、徐々にレベルアップしていった。スキー学習では、宿泊所の皆さんに感謝の意味を込めて、立志式では、保護者の皆さんに感謝の意味を込めて歌った。数え切れないほど歌い、歌詞の言葉が血となり肉となるようにした。不思議とこの歌を歌うと、聞いている人は涙を流すのが印象的であった。ちなみに、大地讃頌は卒業式でも歌うので、合計4回の発表になる。西中の伝統になりつつあり、生徒にとって、『中学時代＝大地讃頌＝広島』という記憶が、心の奥に深く刻まれるであろう。



(スキー宿泊学習で、2年1月)



(立志式で、2年2月)

実施へ

1 行程

5 / 20	佐野町前集合・出発	(両線)	小山駅	(なすの254号)	東京駅	(のぞみ103号)	広島駅	
(水)	5:10	5:48	6:15	6:38	7:24	7:50	11:58	12:20
	(広島鉄)	原爆ドーム前	12:35	平和記念公園(ガレキには案内資料)	13:00			
	アトイプガ(被爆者会)	16:00	17:00	原爆の子の像(丸瀬)	17:30	世羅別館	18:00	
5 / 21	世羅別館	八丁堀駅	(広島鉄)	広島駅	(のぞみ152号)	京都駅		
(木)	7:20	7:45	7:55	8:24	10:07			
(京都市内別行動外).....		大津リハビリ	10:30~(7曜)	17:30			
5 / 22	大津リハビリ	(バス)	奈良公園(東大)	12:45	近鉄奈良駅	13:10	13:35	
(金)	8:00	9:45	12:45	13:10	13:35			
	(近畿鉄)	京者駅	(ゆり520号)	東京駅	(バス)	西中学校着	18:45頃	
	14:10	14:29	17:10	17:25				

2 目的を達成するために実施したこと

(1) 広島での「平和学習」

平和記念公園ボランティアさんからの説明

約1時間のガイドだったが、ボランティアさんの説明がとても分かりやすく、クラス全員が静かに耳を傾け、熱心に聴いていた。広島と原子爆弾と人々の生活についてなど、本や事前の学習では、得ることのできない貴重な話を聴くことができた。



(平和記念公園にて)



(世界遺産、原爆ドーム)

平和記念資料館の見学

館内の見学のために、約1時間の班別行動をとった。ゆっくりと展示の説明を読みながら、班員同士で感想を述べ合いながら、見学するように指示をした。原爆の恐ろしさや悲惨さを目のあたりにして、時にはハンカチで涙をぬぐっている生徒や、じっと展示物を見つめている生徒もいた。



(見学風景)



(黒こげの弁当箱)



(やけどのあと)



(廃墟の広島)

(2) 広島で「心に響く」体験を

被爆体験記朗読会で原爆詩を聴き、朗読する。(資料1)

午後4時から1時間の朗読会でした。静まりかえった雰囲気でない、感動は伝わらないので、静寂の中で心と耳で聴くようにさせた。途中、朗読を聴きながら泣き出す女生徒が何人もいて、感動的な朗読会でした。たくさんの生徒が涙を流しながら詩の朗読を聴くという不思議な光景にホールは包まれた。この広島で実際に起こった事実だということが、その土地の空気とともに見事に伝わった。広島に来ないと絶対にできない経験である。



(詩の朗読)



(生徒による詩の朗読)

原爆の子の像の前で折り鶴を奉納する

千羽鶴は、1クラス30人で千羽鶴を作った。4クラスなので合計4000羽の折り鶴を奉納した。鶴を折るときに佐々木禎子さんと原爆の子の像について、事前にワークシートを使い学習した。鶴を折るのは、約3ヶ月かかった。



(原爆の子の像にて)



(千羽鶴の奉納)

「大地讃頌」の歌声に想いをのせて。

(1回目) 被爆体験記朗読会で、原爆詩を聞いたあとに歌う。

朗読会の後にホールで歌った。朗読会で多くの生徒が涙を流し、泣きながらの大地讃頌は感動的な歌であった。詩を朗読して下さった方も涙を流しながら聴いてくれたのが印象的だった。



(アスティールザにて)



(涙を流しながら歌った大地讃頌)

(2回目) 原爆の子の像の前で、折り鶴を奉納した後に歌う。

朗読会の後、原爆の子の像の前に移動し、鶴を奉納した後にもう一度大地讃頌を歌った。歌詞の一語一語をかみしめながらの歌は、今までで最高の合唱になった。平和への想いを込めて歌った「大地讃頌」は、道行く人が思わず立ち止まって聞き惚れるほどの感動的な合唱であった。



(原爆の子の像の前で)



(平和への想いを込めて大地讃頌)

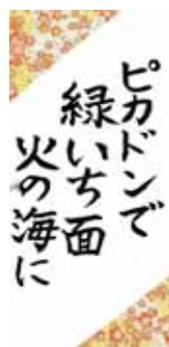
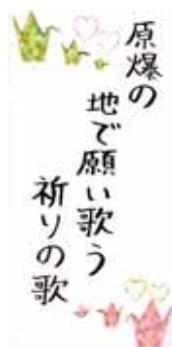
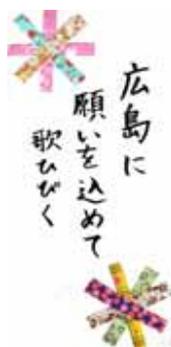
最後に

1 広島への修学旅行を振り返って

(1) 事後の学習

国語の授業で

- ・俳句の作成



総合的な学習で

- ・修学旅行新聞の作成 (資料3)

英語スピーチで

- ・広島への修学旅行をテーマにスピーチコンテストに参加した。(資料4)

(2) 生徒の感想より

【M.S 女子】

平和記念資料館はテレビで見るのと違い、実際に見ると戦争の恐ろしさが強烈に伝わってきました。被爆者の方は、朗読会の間ははじめから終わりまでずっとあの頃の映像が映っていたのではないかと思います。ずっと苦しそうな顔をしていました。私たちが大地讃頌を歌ったときに、朗読ボランティアの方が涙を流しながら聞いてくれたことが印象的に残っています。

【H.M 女子】

平和記念資料館を見学したあと、詩の朗読を聞いて詩の中に込められた思いを想像してみるととても悲しい気持ちになりました。急に鼓動が激しくなり、もう一度詩を読んだら涙がこぼれてきました。一回目の大地讃頌は泣いていて歌えませんでした。原爆の子の像の前で歌った大地讃頌は、今までで一番気持ちを込めて歌いました。

【Y.A 女子】

資料館の展示物を生で見るとすごいと思った。原爆が落ちた瞬間に止まった時計とか...。なんか、考えさせられました。人間って...愚か者だなんて...。大地讃頌を歌ったときに、朗読をしてくださった方が泣いていたのを見たときには、歌で人を感動させるってすごいことだと思いました。

【H.U 女子】

被爆体験記と詩の朗読会では、読む人が感情を込めて読んでくれたのでとても悲しくなり、涙が出そうになりました。戦争がどんなに悲惨なものか、その時の被害状況や人々の心の様子がリアルに思い浮かびました。

【I.R 女子】

なにもかもが、すごく楽しかったです。広島では、詩の朗読会と原爆の子の像の前で歌った大地讃頌はみんなの心が一つになったような気がして、強く心に残っています。

【S.S 男子】

心に残っていることが3つあります。1つ目は、大地讃頌の歌です。平和記念資料館を見学し、詩の朗読を聞いた後で歌ったので、その気持ちを歌にのせて歌うことができたからです。今まで歌った大地讃頌とは、違った気持ちで歌うことができました。

【Y.E 女子】

平和資料館を見て、むかし日本でこのようなことがあったのだなと思うと悲しくなりました。今の私たちの生活がどんなに幸せで平和なのかが分かりました。

【H.N 女子】

始めて見た原爆ドームは、見ただけで鳥肌が立ち、原爆の恐ろしさが伝わってきました。詩の朗読は、その当時の人々の気持ちが伝わってきて背筋がぞくぞくしました。戦争のない平和な国であって欲しいと強く思いました。

【T.H 女子】

広島では、原爆の恐ろしさ、家族の大切さ、命の尊さを学びました。私には、父がいて、母がいて、姉妹がいることが当たり前に思っていました。でも、詩の朗読会を聴いて、当たり前でないことを知りました。このことをきっかけに家族や命を大切にしていきたいと思います。

2 今後の成果と課題

(1) 成果

- ・修学旅行のための平和学習は、2年生の9月から約9ヶ月にわたって行った。原爆の恐ろしさや、佐々木禎子の生涯など、「平和」について学習できた。
- ・平和記念資料館の見学や被爆体験朗読会など、現地広島の地で肌で感じた貴重な体験は、多感な生徒の心を揺さぶり生徒の「人間形成に大きな影響」を与えたはずである。
- ・広島への修学旅行は、心に響く感動的なものを作る可能性を秘めている。特に、涙を流しながら大地讃頌を広島で歌ったことは感動的であった。これから大地讃頌という歌を聞くたびに「大地讃頌＝修学旅行＝広島」そして「平和」という想いが心に湧いてくるであろう。

(2) 課題

- ・計画的な準備が必要である。平和教育については、調べ学習やビデオ視聴、他教科との連携など中学校入学時から計画的に行う必要がある。大地讃頌の練習については、歌詞の意味をよく理解し、歌の背景をよく理解し、時間をかけて練習する必要がある。
- ・広島への修学旅行は、静寂の中で行われる方がよい。心を揺さぶる感動は、静かな雰囲気の中で自分の心振り返ることによって沸き起こる。これには、生徒一人一人が心がけることと、教師による集団の統率が必要である。

3 終わりに

広島への修学旅行を計画するに当たって、関修委を利用しての新幹線は新大阪までしか乗れなく、関修委を抜けなければならなかった。そのために数々の問題に直面し、また近隣の学校で広島に行っている中学校がなく、暗中模索の中のスタートであった。さらに今年度は、出発直前に新型インフルエンザが関西方面に流行し、中止か、延期か、実施かに揺れた修学旅行であった。出発2日前に臨時保護者会を開き、保護者と検討するなど多くの困難を乗り越えての修学旅行であった。

しかし、生徒が涙を流しながら歌った大地讃頌は、私たち教師にも深い感動を与えてくれた。帰ってきてからの生徒の感想にも、深い感動と温かい心、そして戦争を憎み、平和を切望する強い思いが込められていた。広島への修学旅行が、生徒の心に大きな影響を与えたと信じている。平和を願う気持ちを育てることが、現代の修学旅行として必要なことであると思う。

今後、関修委で広島まで行ける修学旅行になることを切に望んでいる。

**広島で平和学ぶ
修学旅行今年も**

佐野・西中

折り鶴持参、歌も披露

【佐野】西中の三年生百五十三人が、十六日に修学旅行先の広島へ持参する「折り鶴」の制作に追われている。同校は昨年、市内で初めて平和教育の一環として旅行先に広島平和記念資料館を選んだ。今回も六カ月前からグループごとに毎週一時間、壁新聞をついたり、歌の練習を重ねるなど準備を進めてきた。(長茂男)

これまで市内の中学の修学旅行は京都、奈良が中心だったが、同校は総合学習の中で平和教育をテ

「ママに、戦争の悲惨さ平和の尊さを学んでもらおうと、「広島」も加えた。尾崎始校長は「修学旅行という節目の時に、人間的に成長できる機会があってもいいと思う」と説明する。

昨年は原爆の恐ろしさを伝える資料の前で、立ちすくんだり、被爆者の語り部の話に涙する子どもたちの姿があったという。「子どもながらに考えるものがある。これから成長していく上で大きな力になるはず」と尾崎校長。

今年は二泊三日の初日の十六日に、平和記念資料館や平和記念公園に足を運ぶ。当日は朗読ボランティアの話や、公園内の「原爆の子の像」に折り鶴をささげ、命の尊さを歌った「大地讃頌(さんしょう)」を像の前でアカペラで歌い上げる。

修学旅行実行委員会の斎藤彩さん(四)、田中那未さん(四)は「広島では教科書にはない面を、たくさん学べると思う」「戦争に関するニュースなどの見方が変わってきた」と話す。

準備に半年、16日出発

広島平和記念公園の「原爆の子の像」にささげる折り鶴を手にする斎藤さん(左)と田中さん

(下野新聞 平成19年5月12日付より)

(資料 1) 被爆体験記朗読会

被爆体験記 (三好妙子)

三好妙子さん、当時9歳。東千田町の自宅で被爆しました。被爆直後、誰かにつれられて生き延びましたが、そこで母と永遠に別れることになりました。

八月六日、家の廊下に座っていた。その時、稲妻のような光が頭上を通り過ぎ、真っ暗になり、やがて明るくなった時、母、祖母、私の三人は、吹き飛ばされ、床下に落ちていた。

からだじゅう、ガラス片が、つきささり、切りさかれ、血しぶきが吹き出していた。母ののどには大きな穴があき、言葉を発するたびに、その穴から赤黒いメンタイコのようなものが垂れ下がった。私は、泣くこともものを言うことも忘れ、黙ってそれを見ていた。母は、近くにあった布で、私の身体にその布を裂いて、必死に結んでくれた。苦しい息を吐きながら、一滴の血でも止めてやりたい、というように。その母の手は真っ赤で、ぬるぬると血で光っていた。

「火が回ってくるぞ。早く逃げろ。」と叫ぶ声が出て、私は誰か男の人の脇にかかえられた。「お母アちゃん。」始めて私は叫んだ。その人は、私を抱いて、ガレキの上を電車道へ向かった。母と祖母が、ガレキの向こうに見えなくなってゆく。母が、真っ赤な手をかすかに振るのが見えた。それが、母と私の最後の別れでした。

電車道は、黒こげの人が皮膚をぶらさげて、血で塗りつぶされた身体で、ハダシで、黙って逃げている。不思議と静かだった。

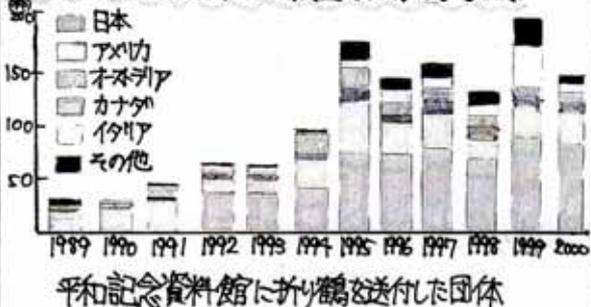
川土手で、真っ赤に燃えさかる空を見ながら、一夜を明かした。まわりに、中学生らしい黒い人形のような人達が、たくさんころがっていた。

「お母さん」「お水をください」「熱いよう」その声も、だんだん小さくなり、やがて息絶えていった。淋しくも恐ろしくもなかった。みんな人の形をした感情のない塊でしかなかった。傷だらけの身体が痛みを感じたのは、三日ぐらいたって、収容所で血のりをついた布を傷口からはがされたときだった。思いっきり泣いた。そして、そのまま意識を失った。

気がついたときは、戦争が終わっていた。でも、その日から私の苦しみが始まった。身体中につきささったガラスの破片、傷口をはい回るウジ虫。そして、毎日母を呼び、子供の名前を呼びながら死んでいくまわりの人達。そんな収容所での苦しい日々。板の上に寝かされて、私は、母との最後の別れの記憶だけは、毎夜鮮明に浮かんで来た。夜空の美しい星を眺めながら、幼い私は母を思い出し、毎夜静かに泣いていた。

あれから五十年。両親や兄を原爆で失い、自分は学徒動員に行っていて一人生き残った主人は、思い出すのがつらいのか、決して、あの日のことは語らない。私も思い出したくなかった。でも、言い古された言葉だけれども、戦争がどんなに悲惨なものか、こんな話が信じられない今の子供たちに、どうしても知って欲しい。そして、この平和がいつまでも続く事を祈りながら、ペンをとりました。

原爆の子の像はどうやってできたのか？
 禎子さんの同級生であった6年竹組の子供たちは小学校を卒業しても、同級会組織「団結の会」をつくりお見舞いを続けました。しかしなかなかお見舞いに行けないまま禎子さんは亡くなってしまいました。そして、禎子さんのためにお墓か記念碑を作りたいと考えようになりました。そして「団結の会」は手作りのヒラを2000枚配り、像を建てるのに賛成してくれるように呼びかけました。その後市内の各学校の生徒会が集まり、「平和をさすく児童・生徒の会」が結成され、募金活動が始められました。結果的には、約580万円、海外9か国からも募金が届きました。禎子さんが亡くなってから1年たつ10月には、平和記念公園設置が決まりました。



私のテーマ

原爆の子の像と
禎子さん

平和学習を通して、禎子さんのことを知りました。折り鶴のことや、原爆の子の像のことなど、だいたいのことは分かったけど、詳しく知らないの、どうやって像はできたんだろう？などの疑問がわいてきました。だから、このテーマのことで調べてみることにしました。

原爆の子の像とは

高さか9mあって、3本足の台座とそこに立つ折り鶴を高くかかげた少女のブロンズ像です。彫刻家の菊地一雄さんが制作し、折り鶴の少女は永遠の理想を、両横の少年少女は、明るい未来を象徴しています。また像の中央部につるされている鐘と金色の折り鶴は、ノーベル物理学者の湯川秀樹さんから送られました。残念ながら、金色の雀島は盗まれてしまい、複製品が資料館に展示されています。

世界に広まる禎子さん

禎子さんのことは、「サダコと折り鶴の物語」となって世界に広まっています。オーストラリアのジャーナリスト、ロベイト・ユンクさんが広島を訪れ、話を聞いたのかき、かかげた。ユンクは創作を交えて禎子さんを描き「廃墟の光」として世界に発表しました。それぞれの立場で伝えられたサダコは世界各地で人の感動を与えました。紙芝居やマンガを含めた絵本読み物が日本では23冊、海外では、35か国で14冊が作られています。

感想

わたしは原爆の子の像と禎子さんについて調べて、像ができるまでの物語に感動しました。禎子さんの同級生を初め、いろいろな人が、「原爆の子の像」を立てようと一生けん命なところ。わたしは禎子さんの物語が世界を含め、もっといろいろな人に知ってほしいと思いました。そして、戦争について、いろいろ考えてほしいです。わたしも、もっといろいろ知っておくべきだなと思いました。

あなたは「サダコと千羽鶴」の物語を知っていますか？

	知っている	知らない
日本	61% (87人)	39% (57人)
外国	93% (88人)	7% (7人)

How my school trip changed me

What do you think about nuclear weapons ? Some people think that they are terrible. Some think they are necessary for the state. Or some people say, 'I have never given much thought to nuclear weapons. People may think in different ways. But I state clearly, 'We must not have any nuclear weapons _____ anywhere.'

Every summer we have a lot of opportunities to learn about atomic bombs on TV and in the newspaper. Since they were dropped 64 years ago, which was long before I was born, I just thought that they were awful. But now I can think much more seriously. My school trip to Hiroshima changed me.

In May, I went to Hiroshima and visited the Peace Memorial Museum. Everything I saw there was terrible. The Atomic Bomb Dome, many cruel pictures that showed the terrible power of the bomb and poems written by victims. I could hardly look at those terrible things. A poem composed by a nine-year-old girl said that she lost her mother first, then she lost her father, brother and sister. She lost her entire family. The poem made me so sad that I could not stop crying. But at the same time, I felt ashamed that I did not take nuclear weapons seriously before. I didn't know exactly how the atomic bomb had changed Hiroshima.

Today there are more than 20,000 nuclear weapons in the world. More than 60 % of people in the USA think that dropping the atomic bombs was the right way to end the war. I get angry about those facts, but I can understand why they think in that way. They have never seen the Atomic Bomb Dome, they have never seen those cruel pictures, they have never read poems written by victims, they have never suffered from the aftereffects of radiation, and they have never lost their family because of nuclear weapons. That's why they aren't against nuclear weapons. They should see how the atomic bomb changed Hiroshima. I think that not knowing anything is more dangerous than the nuclear weapons themselves.

Mr Barack Obama, the president of the USA, made a speech on nuclear weapons in Prague. He wants a world without nuclear weapons. His speech has been in the spotlight since then. I have great expectations that more people will know that nuclear weapons are lethal and make the world terrible. And I believe that his speech can be a new step in the right direction. Now is the time to think about nuclear weapons seriously.

Thus my school trip made me who I am today. So I'd like to ask you again, 'What do you think about nuclear weapons ?'

修学旅行で変わった私

あなたは核兵器についてどう思いますか？

「とても恐ろしいものだと思う」「国家のために必要だ」「自分にはよくわからない」などと、その考えはさまざまでしょう。でも、私は自信を持って言いたいと思います。「核兵器はこの世界に絶対に存在してはいけない」と。

毎年夏になると、テレビや新聞で、原爆に関するたくさんのことを目にします。昨年までの私は、そういうものを目にしても、自分が生まれるずっと前のことだから・・・と、どこか他人事で、ただ単純に「怖いなあ」というくらいにしか感じるできませんでした。でも、今の私は違います。私の考えを大きく変えたのは、広島への修学旅行でした。

原爆ドームはもちろんのこと、平和記念資料館で目にした数々の恐ろしい写真、朗読会で聞いた被爆者に書かれた詩、そのすべては思わず目を覆いたくなるほどで、想像を絶して、悲惨でした。特に、9歳の女の子が書いた詩・・・血まみれになった母親と死に別れ、自分以外の家族が次々と死んでいく、地獄のような世界だった・・・を聞いたとき、私は涙を流さずにはいられませんでした。と同時に、核兵器に対して甘い考えしか持っていなかった自分自身が恥ずかしくなりました。

現在、世界中に2万発以上の核兵器が存在するのを知っていますか？ また、アメリカでは、国民の60%以上が、「戦争の早期終結のために、原爆投下は正しかった」と思っているのを知っていますか？ とても驚くべきことで、腹も立ちますが、私はその理由が少し分かる気がしています。なぜなら、核保有国の人々や、原爆投下が正しかったと考える人たちは、広島で起こったことを知らないだろうからです。原爆ドームを見たこともないし、あの悲惨な写真を見たこともないし、後遺症で苦しんでいるわけでもないからです。ましてや、核によって、愛する人を失っていないからです。原爆がもたらす悲惨な状況を知らないこと、たった1発の原爆で何年、何十年と人々が苦しみ続けなければならないことを知らないことが、核保有や「原爆投下が正しかった」と考える原因だと、私は強く思います。「知らない」ことが何より恐ろしいことなのかもしれません。

アメリカのオバマ大統領がプラハで「核なき世界」宣言をしたことで、世界中が核問題に注目し始めたと感じています。ひとりでも多くの方が核問題に関心を持ち、核のもたらす数々の不幸を知り、核廃絶への意識を高めていくことが、世界平和の第一歩と信じます。そして、今こそが、世界中が核兵器について真剣に考えるときののだと思います。

修学旅行で大きく考えが変わった私ですが、皆さんにあえてもう一度お聞きします。「あなたは核兵器についてどう思いますか？」

(資料5) 「土の歌」「大地讃頌」の歌詞

作詞：大木惇夫 作曲：佐藤眞

第一楽章「農夫と土」

(人間が生きていくためには土を耕して種を蒔かなければなりません。自然の恵みや神秘
土への感謝、そして農夫の一日が見事に描かれています。)

耕して 種をまく土 人みないのちのかてを つくり出す土
耕して 種をまく者 農夫らの楽しみのたね 悲しみのたね
ともかくも たねがいのちだ
朝 星を見て 野良に出る 働いて 汗をひいて 夕星を見て帰るのだ
たねをはぐくむ土こそは たねをまく者の夢だ望みだ そして祈りだ
花咲き みのる 毎年の約束の不思議さよ

第二楽章「祖国の土」

(人は皆土に生まれ、土に還っていくという大地の素晴らしさが描かれています。)

ああ 大地 踏んでみて 寝ころんでみて たしかな大地
ああ まして祖国の土の尊さ
大空の星を仰いで 高く仰いで 歩け歩け しかし溝にははまるまい
山河よ さくらの 菊の 花咲く丘よ
顔上げて 堂々と踏みしめて
この土を踏みしめて この土を譲ろうよ 祖国の土を

第三楽章「死の灰」

(広島と長崎の原爆が取り上げられています。)

世界は絶えて滅ぶかと 生きとし生けるもの皆の 悲しみの極まるどころ
死の灰のおそれは続く
文明の不安よ 科学の恥辱よ 人知の愚かさよ
ヒロシマの また長崎の 地の下に泣くいけにえの霊をしるべば
日月は雲におおわれ 心はよみの路をさまよう

第四楽章「もぐらもち」

(第三楽章と同じく原爆の事と人間の愚かさが書かれています。)

もぐら もぐら 土にもぐって日のめも見ない
もぐら もぐら それでもおまえはしあわせだとさ もぐら もぐら
地の中の穴の暮らしが安らかだとさ もぐら もぐら
火の槍におびえる者は 死の灰をおそれる者は もぐらのまねをするそうなる
ほどな 土から出て来て土にと帰る もぐら もぐら どのみちそれが人間か
わっはっは わっはっは もぐら もぐら 笑ってやれよ人間を もぐら

第五楽章「天地の怒り」

(今度は人為的な災害では無く、天災について描かれています。)

自然の災害は人間の悪業への天罰なのかもしれません。)

雷だ いなづまだ 嵐だ 雨だ 洪水だ
土手が崩れる がけが碎ける 橋が流れる
樹も垣も根こそぎにされる 濁流が家を呑む 人をさらう
地の上に山脈があり 地の上に重みがある
地の下に燃える火があり 地の下に怒りがある
地の上に絶えずかぶさる人間悪よ 地の上のなげきは深い 長い年月
火の山の爆発だ 地震だ 火事だ
溶岩が流れる 尾根が崩れる 落ちる なたれる 火の海だ 修羅のちまただ
逃げまどう人の すさまじい叫び
うめき のけぞる ころがる
煙突が倒れる 時計台が崩れる 荒れ狂う町

第六楽章「地上の祈り」

(大地への想いと反戦の祈りが歌われている。大地の恩寵を感謝し、大地の平和を祈ります。)

美しい山河を見て 美しい花を見て 大地のこころを信じよう
恩寵を自然にうけて感謝しよう
ああ 戦争の狂気をば 鎮めたまえ
剣の乱れ 爆弾の恐れを さけたまえ
天意にそむく動乱を おさめたまえ
ああ 戦争の狂気をば 鎮めたまえ
地の上に花咲く限り よろこんで日ごと営み 悲しみも耐えて生きよう
ああ 栄光よ ああ 地の上に 平和あれ

第7楽章 『大地讃頌』

(母なる大地に限りない感謝と祈りをささげ、平和を祈っています。)

母なる大地のふところに われら人の子の喜びはある
大地を愛せよ 大地に生きる人の子ら その立つ土に感謝せよ

平和な大地を 静かな大地を 大地をほめよ たたえよ土を
恩寵のゆたかな大地 われら人の子の 大地をほめよ
たたえよ 土を 母なる大地を たたえよ ほめよ
たたえよ 土よ 母なる大地を ああ たたえよ大地を ああ